

提出されたご意見とそれに対する本市の考え方

項目	ご意見等の内容	本市の考え方	対応内訳
<p>第2章 熊本市動植物園のあるべき姿 8. マスタープランのコンセプトとテーマ</p>	<p>重要事項の優先順位が不明です。いろいろなコンセプトが羅列してありますが、何が最も中心的となるべき課題であり、それを補強するためには、どのような課題をどのような方向性で実施すべきであるのかが、これではわかりません。ここがよく理解・共有されていなければ、結果としての来園者数という数字はそうした働きかけに対して伴ってくるものですから、良い結果に結びつくようには思われません。動物園に関して最も重要なことは、園内にいる動物にとって最も自然に近い環境を作り出すの一点につきます。</p>	<p>本計画では、動植物園のコンセプトを「愛され続ける水辺の動植物園へ」としていますが、これは、動植物園の存在意義を多くの皆様にご理解頂くこと、また、江津湖湖畔にある立地上の特色を再認識して頂くことを目的としています。</p> <p>近年、動植物園に求められる役割やニーズが多様化する中、本市動植物園においては、施設の老朽化や収支の改善など固有の課題を抱えていることから、これらを「4つの課題」としてまとめ、素案P4～7に記載しています。また、4つの課題に対応する形で「4つのテーマ」に取り組むこととしています。</p> <p>動物や植物の展示に関しては、素案P17～33に記載のとおり、生息域を感じられ、動物の福祉に配慮した展示を行うことは重要と認識しており、本計画に基づき、動物たちの環境改善について着実に実施したいと考えています。</p>	<p>対応3 【説明・理解】</p>
<p>第3章 計画実現に向けた取り組み 9. 「驚きと新たな発見！いきものミュージアム」</p>	<p>「日本庭園の樹木の整理（間引き、剪定）を行い、見通しを確保するとともに四季を感じられる風景を作り出す」との実施目標が設定されていますが、生物多様性の視点、四季を感じる視点からみれば、樹木の整理（間引き、剪定）は必要最小限にとどめるべきと考えます。</p>	<p>日本庭園につきましては、樹木が成長したため観覧するには庭園内が暗くなりすぎており、またそれにより樹木の成長を阻害している面もあることから、この実施目標を設定しています。</p> <p>しかしながら、ご意見のとおり、樹木の整理は必要性を十分に確認した上で実施するべきと考えますので、素案P18の一部を修正いたします。</p> <p>【修正内容】 素案P.18 下線部を追加する 日本庭園の樹木の整理（間引き、剪定）を必要性を十分に確認した上でを行い、見通しを確保するとともに、四季を感じられる風景を作りだす。</p>	<p>対応1 【補足修正】</p>
	<p>「動物資料館で繁殖した水生生物を放流する」については、人工繁殖に使用できる親の数が少ないはずですので、その子供は遺伝子には偏りがあると思われます。</p> <p>小学校や中高の生物部等への教材として、水生生物を配布されてはいかがでしょうか。</p>	<p>ご意見のとおり、人工繁殖を行う場合は生物多様性の観点に十分配慮する必要がありますが、現在、素案P28に掲げている「水辺のいきもの探し」エリアの流域環境は良く、繁殖した水生生物を放流する必要にはない状況であることから、ご意見のとおり、素案P28の一部を修正いたします。</p> <p>また、教材としての配布に関しては、学校等と十分な協議を行ったうえで実施する必要があることから、要望があった際に個別に対応してまいります。</p> <p>【修正内容】 素案P.28 「動物資料館で繁殖した水生生物を放流する」に関する記述を削除する。</p>	<p>対応1 【補足修正】</p>

項目	ご意見等の内容	本市の考え方	対応内訳
第3章 計画実現に 向けた取り 組み 9. 「驚き と新たな発 見！いきも のミュージ アム」	動植物を尊重する展示や説明を期待します。	素案P17～29に掲げた「将来を見据えたエリア計画」をもとに、それぞれのエリアごとに展示のテーマを定めることとしました。これに加え、素案P31～33に記載に記載をしている「動物の福祉に配慮した展示」をはじめとする展示の改善に取り組む予定としており、ご意見のとおり、動物や植物を尊重するような展示や説明に努めてまいります。	対応2 【既記載】
	動物たちの暑さ対策（広さと風とおしが必要）です。動物にストレスがかからないように、展示場の広さと、お客さんとの距離を離して作ってほしい。 また、トレーニングしやすい作りしてほしいです。（ハズバンドアリーナなど）	素案P33に「動物の福祉に配慮した展示に取り組みます」を掲げ、展示方法の改善に取り組む予定としており、ご意見のとおり、動物たちの環境改善に向け、着実に実施したいと考えています。	対応2 【既記載】
	熊本市動植物園の整備計画に関しまして、現在「動物園エリア」と「植物園エリア」が分かれているのを、是非、見直して頂きたいです。私は、一体化した方がスケール感が益しますし、自然の豊かさをより実感できると思います。 動物園の一番人気のライオンなどの獣舎が、とても狭いのが可哀そうでなりません。 自然の地形を有効利用して、自然の形に近いゆったりした獣舎を新設して頂きたいです。獣舎の建設費用などは、クラウドファンディング形式にしたなら、費用の工面は実現出来ると思います。ちなみに、私は、数年前、札幌円山動物園のライオン獣舎を見学したことがあります。ライオンをいろんな角度から見る事が出来るよう工夫されていました。また、高い岩場に佇んでいるライオンの姿の気高さに大変感激しました。百獣の王に相応しい獣舎をご検討頂きたいと、心より強く願っています。	動物園施設と植物園施設の一体化については、ご意見のとおり、解決すべき課題と認識しており、素案P32に記載しています。 次に、ライオンの動物舎についてですが、素案P30に「動植物園開園100周年記念整備エリア」を掲げており、広大なサバンナ風景を再現できるような整備を実施する際に、同エリアに動物の福祉に配慮したライオン舎の整備を行う予定としています。 また、その整備の際には、素案P58記載の「動物サポーター制度の見直し」を行い、ご意見のような、寄附金制度の創設を検討したいと考えています。	対応2 【既記載】
	「動物ファースト」で考えて欲しい。日本各地の動物園を見てきたが、熊本市動植物園ほど個体収容施設が狭いところを見たことが無い。特に猛獣舎はひどい。彼らは観賞用のペットではない。狭いところに閉じ込められた動物を見て「かわいそう」「寝てばかり」「元気ないな」としか思わなければ、動物達の幸せはもちろんのこと、笑顔になれる来園者は誰もいない。動物にやさしくない動物園No.1の汚名は返上して欲しい。動物達が生き生きとして幸せそうだなと感じられる状況をつくるのが土台づくりであり、そこから他の全ての事象へとつながっていく。	素案P33に「動物の福祉に配慮した展示に取り組みます」を掲げ、展示方法の改善に取り組む予定としており、頂いたご意見のとおり、動物たちの環境改善に向け着実に実施したいと考えています。	対応2 【既記載】

項目	ご意見等の内容	本市の考え方	対応内訳
<p>第3章 計画実現に向けた取り組み 9. 「驚きと新たな発見！いきものミュージアム」</p>	<p>まず、野鳥に対する配慮を考えてほしい。水場、森、草むらなど、人と自然の生き物が共有する場であり、重要な自然観察路である。年々、野鳥の住処は追われている。あれほど野鳥が来ている地域も少ないと思うし、安心して過ごせる場であることから、渡り鳥も多く訪れている。</p> <p>動物園と江津湖は協力関係を結びながらも、世界の生き物を見られる動物園エリアと熊本の本来の自然を守る保護エリアの意味づけをはっきりさせてほしい。単なるリゾート開発のようなやり方をすると、環境破壊に繋がったり、周辺住民が夜もゆっくり休めないような騒がしさを連れてくることもあることを考えてほしい。</p>	<p>江津湖の自然環境の保全については、素案P9の「計画の位置づけ」に記載のとおり、基本的な考えとして持っております。</p> <p>また、熊本県及び国内の動植物を通じ、身近な自然の大切さと生物多様性を学ぶことができる展示を行うため、素案P18のとおり「ふるさとの自然」エリアを設けます。加えて、江津湖との調和を図るため、素案P37のとおり、江津湖の豊かな自然や文化、歴史などを情報発信する「(仮称)水辺のインフォメーションセンター」の設置も予定しています。</p> <p>このように、江津湖の自然環境保護の視点を持ち、計画の推進に努めてまいります。また、施設整備の際には、野鳥はもとより、周辺環境にも配慮した上で実施してまいります。</p>	<p>対応3 【説明・理解】</p>
	<p>ふるさとの自然エリアによし池も含めることはできないでしょうか。よし池は動物園ができる以前からそこに存在し地元の人から「よし池」と呼ばれていたと聞いています。そこで、よし池の復活と保全を図り、水辺の生態を手軽に学ぶことができる場、さらにはニホンバラタナゴなど日本在来種の聖地を目指して整備してはどうでしょうか。</p>	<p>よし池を含む園内の池は、環境改善を図るために、平成30年度に池循環ろ過装置を設置しましたことから、池の中で水生生物を安定して飼育することは困難な状況です。</p> <p>ご提案の日本在来種の聖地を目指した整備については、素案P28に掲げている「水辺のいきもの探し」エリアで行う予定であり、今後も園内の池の環境改善を図るため、浚渫などの環境整備を行いながら、保全を図ってまいります。</p>	<p>対応3 【説明・理解】</p>
	<p>ほんとに必要なかなと思ったのが、ふるさとのゾーンで棚田で田植えの体験をするというものです。熊本には素晴らしい本物の棚田がいたるところにあるのに、なぜわざわざ動物園の中に偽物の棚田を作る必要があるのでしょうか。もちろん田植えもそんな簡単には体験できないのですが、動物園につくるには渋すぎるような気がします。</p> <p>もしふるさとのゾーンに棚田を作るのでしたら、江津湖にある芭蕉園を動物園の中に入れてほしいと思いました。芭蕉の木が見られるのは江津湖ぐらいで(周りに駐車場がない)、車社会の熊本市民、県民があのジャングルを体験するのはハードルが高いです。しかし動物園だったら駐車場もありますし、簡単に体験することができます。</p>	<p>「ふるさとの自然」エリアについては、熊本県及び国内の動植物を通じ、身近な自然の大切さと生物多様性を学ぶことができる展示をコンセプトとしています。</p> <p>現在も、ニホンザルエリアの一角に小さな田んぼを設け、小学生を対象の体験イベント「動物園に田んぼを作ろう」を実施していますが、決して大掛かりな棚田を再現するものではなく、あくまでも子供たちに、普段できない田植えの体験と、国土の狭い日本で考えられた棚田を知っていただくことを目的としているものです。</p> <p>なお、芭蕉園の再現は、本計画には含まれておりませんが、江津湖の貴重な自然環境スポットとして、情報発信に努めてまいります。</p>	<p>対応3 【説明・理解】</p>
	<p>冬も楽しめるように、蝶の群れが飛ぶ温室づくりを。</p>	<p>花の休憩所(温室)については、素案P27に掲げている「亜熱帯の森」エリアにおいて、亜熱帯に生息する動物と植物を一体的に展示する予定です。</p> <p>現在は植物のみの展示を行っていますが、今後は、昆虫の展示予定はないものの、動物の飼育展示に取り組んでまいります。</p>	<p>対応3 【説明・理解】</p>

項目	ご意見等の内容	本市の考え方	対応内訳
第3章 計画実現に向けた取り組み 9. 「驚きと新たな発見！いきものミュージアム」	犬、猫の展示は動植物園の趣旨に反しますか。 保護センターの、犬や猫にふれあってもらい、相性があえば引き取ってもらう等の取り組みは難しいですか	犬や猫の展示に関しては、現在愛玩動物としてなじみが深いことから、動植物園での展示予定はございません。 しかしながら、動物愛護週間の期間中に、動物愛護センターと連携して、動物愛護に関する啓発イベントを行っています。今後も、同センターと連携しながらこのようなイベントに取り組んでまいります。	対応3 【説明・理解】
	「四季の花木園」に、原風景である「里山の再現」も考えていただきたいと思いました。	素案P29に掲げている「四季の花木園」エリアには、肥後六花コーナーを設ける予定です。日本や熊本の原風景については、素案P18～19に掲げている「ふるさとの自然」において、里山を感じられるような展示に取り組みたいと考えています。	対応3 【説明・理解】
	「ニッポンバラタナゴ」は希少生物の看板生物だと思いますが、ニッポンバラタナゴであることをDNAで同定したうえで、繁殖する必要があります。 しかも産卵先のドブガイの飼育が困難だと思いますので、プランに記載するのは現実的ではないと思いました。 ただし、成功すれば大きな注目を受けるかもしれません。	「ニッポンバラタナゴ」の繁殖に必要な、トブガイの飼育や繁殖の実績はあり、繁殖に取り組むことが不可能な状況ではありませんが、ニッポンバラタナゴに関しては、ご意見のとおり、DNAで同定したうえで繁殖する必要があります。 今後、DNA鑑定を実施した上で、繁殖に取り組みたいと考えています。	対応3 【説明・理解】
	「亜熱帯の森」にいるインコやオウム類を、ぜひ「動物ふれあい広場」に入れてほしい。短い時間でもいいからお金を払ってでも触れ合えると嬉しい。「動物ふれあい広場」の素案はこれまでとあまり変わらない印象を受ける。 余談だが、坂道も多い動物園で、車椅子の方のために充電式バッテリーを差し込むだけのアシスト式車椅子も置いてあり、介助者の方の負担も軽くなる点でとても便利だと思った。これも含めてぜひ参考にしてほしい。	「動物ふれあい広場」の展示については、家畜や愛玩動物を中心に考えています。インコやオウムについては、人が動物に触れることができるような飼育管理を行っていないため、現時点では展示は難しいと考えています。 素案P31に掲げている、「動物の福祉」に配慮したうえで、体験型の展示に取り組みたいと考えておりますので、ご理解ください。 なお、車いすに関しては、熊本市動植物園の地形が比較的平坦であることから、現時点で導入予定はございませんが、ご意見については、今後の事業実施にあたり参考にさせていただきます。	対応3 【説明・理解】
	動植物の展示について、個々のア라운드（詳細情報）がわかるように、それぞれQRコードを表示し、スマホで見られるようにしてほしい。	動植物の詳細な情報は、来園者の皆様に分かりやすいよう、文字情報を極力減らした看板とスタッフのガイドなどでご紹介している状況です。 いただいたご意見のとおり、より詳細な情報が提供できるよう、事業実施の段階において、QRコードやスマートフォンを活用した展示について検討を行います。	対応4 【事業参考】
	「アンネのバラ」のアーケードを。修学旅行生の聖地になると思います。	現在のバラ園については、素案P29に記載のとおり整備を行い、展示エリアを広げる予定です。 当園でも「アンネのバラ」を栽培していることから、ご提案も含めバラ園の整備を行う際に参考いたします。	対応4 【事業参考】

項目	ご意見等の内容	本市の考え方	対応内訳
第3章 計画実現に向けた取り組み 9. 「驚きと新たな発見！いきものミュージアム」	<p>「魅力の創出」と「集客力向上」の間に、「魅力の発信」が必要ではないでしょうか。例えば、集客のターゲットを小学生に絞り「出張の動植物園教室」を開催し、子供が親や祖父母にねだって、一緒に動植物園へやってくる等の戦略が必要ではないでしょうか。</p>	<p>ご意見のとおり、魅力の発信は重要と認識しております。 素案P36に「学習プログラムの整備」を掲げ、発信に努めたいと考えており、ご意見いただいた「出張の動植物園教室」についても、事業実施の段階で参考にいたします。</p>	対応4 【事業参考】
	<p>棚田だけが「原風景」ではありません。再現にはお金がかかるような気がします。 むしろ熊本市では普通の「水田」が原風景だと思います。</p>	<p>棚田については、ツル舎や猛禽舎がある南側の斜面を想定しています。ご意見のとおり、熊本市の原風景は「棚田」でなく「水田」ではございますが、園の地形を活かすために、日本の原風景として設定をさせて頂きました。 今後、事業実施の段階において、いただいたご意見を参考にいたします。</p>	対応4 【事業参考】
	<p>花壇について意見したく、該当するなら「四季の花木園」かと思うのだが、魅せる花壇といえば人気なのはイングリッシュガーデンで、英国式庭園を参考にしてほしい。 花壇をボランティアに開放している場所もあり、色んな方が関わって自慢の花壇を披露している。期間限定で庭が持てると思えば喜んでボランティアに参加すると思うし、日々のお手入れがてら動物も愛でることができるところから、公募すれば担い手はきっと集まると思う。 また、最近の傾向から、一つの花をテーマに広場を埋め尽くすのも人気で、見応えがあるとカメラが趣味の人も集まるようになるので、フォトコンテスト等を企画してもいいと思う。ぜひ、みんながハッとするような魅力的な動植物園にしてほしい。</p>	<p>「四季の花木園」については、素案P29に記載のとおり、令和3年度開催予定の「全国都市緑化くまもとフェア」に向けて展示エリアの改修を予定しています。展示エリアの改修にあたっては、魅力的な動植物園とするために、いただいたご意見も参考にしながら、様々な検討を行ってまいります。 また、ボランティアに関しては、現在も「植物ボランティア制度」があり、ハーブ園などの管理を実施いただいています。素案P57に記載していますが、植物管理の担い手となる協力者を育成したいと考えており、より協力を得られやすい制度へと見直しを図りたいと考えています。</p>	対応4 【事業参考】
	<p>現在、問題となっているイノシシやシカ、さらにアライグマやハクビシンなどの外来動物、また、野良猫や野猫、野犬などについての生物学的な情報をきちんと展示する必要がある。また、植物園についても県内の自然を植物学的にきちんと展示することが、マスタープランに言う、ふるさとの自然を学べる拠点となること。経営的には確かにかわいい、珍しい動物で人集めすることが大切で、それも重要だが、毎年7億円以上もの市財源をつぎ込む以上、かわいい、珍しいだけでは地方の動物園の役割は果たせない。熊本にある動物園として、どう市民に貢献するか。全国初の動植物に関する地域の問題を展示し、発信する動物園になったらどんなに興味深いのか。自治体が設置する施設としての役割も果たせるはずだ。</p>	<p>現在の動植物園では、人と野生動物との関わりを知っていただくために、ニホンザルのエリアで相良村を再現しています。また、今回は、素案P18～19に掲げているとおり「ふるさとの自然」エリアで、熊本県及び国内の動植物を通じ、身近な自然の大切さと生物多様性を学ぶことができる展示を目指してまいります。 さらに、素案P35に掲げている「いきもの学習センター」において、自然環境教育の拠点としての役割を果たすために、生物多様性に関する情報拠点とする予定です。 いただいたご意見については、事業実施の段階で参考にいたします。</p>	対応4 【事業参考】
<p>動物資料館の中の図書コーナーを早く開いてください。戦争と動物コーナーが地震前にありました。ごめんねメリーのDVDが流れていました。早く再開してください。</p>	<p>図書コーナーは、現在空調設備の故障のためご利用いただけませんが、改修が終わり次第再開いたします。 また、戦争と動物コーナーは、終戦記念日のある8月など折を見て企画展示したいと考えています。</p>	対応5 【その他】	

項目	ご意見等の内容	本市の考え方	対応内訳
第3章 計画実現に向けた取り組み 9. 「驚きと新たな発見！いきものミュージアム」	カピバラに温水を入れて展示してほしい。	カピバラのプールに温水を入れることは、冬場の保温策や動物福祉向上の一環として有効な一面があります。しかし、天然かけ流しか循環式のボイラーでない限り、温度の維持が難しく、また、温水を出してから早目に乾燥させないと体を冷やしてしまいます。水温維持のためにプールを狭くすることはできず、条件の揃った立地でないと難しいところがあります。 このようなことから、当園では、スポットヒーターを設置してカピバラに暖をとってもらっています。	対応5 【その他】
第3章 計画実現に向けた取り組み 10. 「江津湖との調和。水辺動植物園を再び」	生き物を理解するようなプランはいくらでも考える必要がある。動植物園は、自由に企画しても良いと思う（周辺環境に配慮したものであり、利用者が、楽しみ環境学習につながるものであれば）。しかし、江津湖の環境保全はすでに、あまり良い状態ではないことに着目すべきである。本来いなかった生き物を市の政策として投入したり、貴重な植物も保全できなかったり、問題が多いように思う。江津湖は、熊本市にありながら、熊本県の財産でもある。阿蘇や周辺の森や田の涵養水が、10年以上かけて、豊かな水を作っている。その水の奇跡も知らせる必要がある。環境省と協力して、環境保全の重要性とその豊かな水の重要性について考えるビジターセンターの建設がふさわしい。子供達の環境学習の場として有効活用すべき。	生物多様性や環境保全については、素案P35に記載の「いきもの学習センター」（現動物資料館）において実施する予定です。 現在も、環境省や本市環境共生課とも連携しながら、生物多様性に関するシンポジウムや自然観察会などを開催し、江津湖を含む環境学習に取り組んでいます。今後は「いきもの学習センター」を拠点に取り組みを強化したいと考えています。 また、ビジターセンターの建設に関しては、既存の施設を有効活用し、素案P37に掲げる「(仮称)水辺のインフォメーションセンター」の設置を行うことで、江津湖の情報収集発信の拠点や環境学習の場としてまいります。	対応3 【説明・理解】
	「(仮称)水辺のインフォメーションセンター」の設置について、「(ウ)熊本地震からの復興・開園の過程・いただいた支援」等と題して、熊本地震からの復興の過程や得られたノウハウ、猛獣達の避難から帰園の経過、全国からいただいた支援の内容等について情報発信のコーナーを設けるとするのはいかがでしょうか。 国内外の動物園等にとっても今後の備えに役立つ情報発信拠点になると思いますし、訪れる児童や生徒、一般住民の方々の学びの場になると思います。 熊本城の天守閣内部にも同様の熊本地震関連展示を新たに行うと聞いていますので、熊本市内の2大観光拠点として熊本地震をテーマに取り上げるのが良いと思います。	「(仮称)水辺のインフォメーションセンター」については、江津湖全体の魅力を感じられるような情報集積と発信拠点としています。 熊本地震からの復興に関する展示については、現在もネコ科動物の展示スペースにパネルを掲示していますが、制作を予定している「震災から復興までの道のりの映像」を「いきもの学習センター」（現動物資料館）で活用するなど、引き続き熊本地震に関する情報を発信してまいります。	対応3 【説明・理解】
	「江津湖の断面」を切り取って、ガラス越しに江津湖の中を直に観察するようなスポットを造成できませんか。	素案P37に掲げる「(仮称)水辺のインフォメーションセンター」において、「江津湖に棲むいきもの展示」を予定しています。ご意見のようなジオラマは、熊本博物館で展示を行っています。 動植物園における展示の手法については、事業実施の段階において、いただいたご意見を参考にしながら検討いたします。	対応4 【事業参考】

項目	ご意見等の内容	本市の考え方	対応内訳
第3章 計画実現に向けた取り組み 10. 「江津湖との調和。水辺動植物園を再び」	江津湖の現状を理解していただくために、在来魚だけでなく、外来魚の展示もお願いしたいと思えます。	素案P37に掲げる「(仮称)水辺のインフォメーションセンター」において、「江津湖に棲むいきものの展示」を予定しています。 今後の展示種については、事業実施の段階において、いただいたご意見を参考にしながら検討いたします。	対応4 【事業参考】
	「飲食施設」については、食べる場所のみを提供し、民間の「キッチンカー」や「軽トラ市場」を開催されている方々に車ごと入っていただき、場所代や売り上げを、もらう方式はいかがでしょうか。	新たな「飲食施設」の導入に関しては、素案P39のカフェ等を想定しています。 ご提案については、既存のレストランとの調整や場所の確保など、検討すべきこともあり、今後の事業実施の段階において参考にいたします。	対応4 【事業参考】
第3章 計画実現に向けた取り組み 11. 「優しさの魅力あふれる動植物園づくり」	来園者向けの施設改修は、トイレや危険な園路のような最低限で良いと思う。限られた予算ならば、なるべく動物施設の充実に使って欲しい。	動植物園は、現在地に移転した昭和44年(1969年)から順次施設の整備を行っており、施設の老朽化が大きな課題となっています。 園の健全な運営に資するためにも、施設の長寿命化に加え、来園者の多様なニーズに対応する快適で魅力ある空間づくりも必要であると考えています。 今後国からの交付金を活用するなどの財源確保に努め、動物舎を含め園全体の施設整備に取り組んでまいります。	対応3 【説明・理解】
	新しい遊戯施設の導入については、必要ないと思えます。 ただ、今ある新幹線や列車、モノレールは撤去してほしいです。 モノレールはキリンなどの展示場の中を通るので危ないし、新幹線はチンパンジー舎の中に響くので、音がうるさいです。 もし作るのであれば、動物の展示場からかなり離れた場所につくってください。	遊戯施設エリアは、動植物園の来園者にとって楽しみの一つであり、多くの皆様にご利用いただいていることから、撤去や廃止の予定はありません。 新たな遊戯施設に関しては、動物に配慮を行ったうえで導入してまいりますので、ご理解いただきたいと思います。	対応3 【説明・理解】
	災害時に被災地の子どもを動植物園へ案内し安らいでもらう。また、避難所に動物の出前をして安らいでもらう。	熊本地震発災後の臨時休園の期間中、子どもたちの心のケアの一助になればとの思いで、市内の保育園や幼稚園、小学校を対象に、ヤギやウサギ、モルモットなどの動物とふれあえる「ふれあい移動動物園」を実施しました。 今後、熊本地震での経験を活かすためにも、災害が発生した際には、動植物園に求められる役割が何であるかを考えながら、その時のニーズに応じた取り組みを行ってまいります。	対応4 【事業参考】
	遊具の新規導入、設置は財源確保で重要ということは分かるが、他のゾーンや施設のスペースを犠牲にしない形で行って欲しい。休息スペースをその付近に集約することで、より遊具の稼働率は上がると思う。	遊具の新規導入にあたっては、現在の遊戯施設エリアを基本に、稼働率の更なる上昇に向け、いただいたご意見を参考に実施してまいります。	対応4 【事業参考】

項目	ご意見等の内容	本市の考え方	対応内訳
第3章 計画実現に 向けた取り 組み 1.1. 「優 しさと魅力 あふれる動 植物園づく り」	立体サインの導入はいかがでしょうか。	立体サイン導入については、事業実施の段階において、いただいたご意見を参考にいたします。	対応4 【事業参考】
	絶叫系の遊具は動植物園の趣旨にそぐわず、動植物にも悪影響を与えます。例えば、園内からスタートし、江津湖全体を周遊す小型モノレールはいかがでしょうか。	遊戯施設の導入に関しては、素案P48に記載していますが、動物や植物に悪影響を及ぼすようなものの導入は困難と考えています。いただいたご意見については、事業実施の段階で参考にいたします。	対応4 【事業参考】
	バイキングとディスクオーのファンだったので、ぜひ復活させてほしい。	遊戯施設の導入に関しては、素案P48に記載していますが、子育て世代に加え、幅広い年代層が楽しめるものを予定しております。いただいたご意見については、事業実施の段階で参考にいたします。	対応4 【事業参考】
第3章 計画実現に 向けた取り 組み 1.2. 「愛 され続ける ための運営 体制の強 化」	新たな来園者確保の手法の一つとして、動植物園を舞台とした、写真や絵画コンクールなどの文化活動を積極的に行っていく。これは本来動植物園が担うべき役割のひとつでもある。写真コンテストについては、入賞作品は表彰の上、カレンダーで使用するというのなら、1年を通してカメラ所有者の来園が期待できる。	動植物園では、現在も地元メディア主催によるスケッチ大会やねんど大会を実施し、非常に人気のイベントとなっています。ご意見のように、文化活動の中で動植物園を題材とし、より身近に感じていただく取り組みも重要であり、イベント編成に関しては、文化活動を含めて実施すべきと考えますので、素案P52の一部を修正いたします。 【修正内容】 素案P.52 下線部を追加する 一方、夏季や冬季の閑散期対策として、 <u>スケッチ大会や写真コンクールなどの文化的なイベントに加え、家族連れ以外のターゲット獲得のため</u> の・・・。	対応1 【補足修正】
	歳入の確保については、入園料のアップも検討してよいのではないのでしょうか。現在の入園料の算定根拠が分かりませんが、少なくとも当初より物価等は上がっています。	動植物園では、平成9年度の入園料改定以降、約22年間入園料を据え置いてまいりましたが、社会経済情勢の変化に伴い、令和2年4月から入園料改定を実施します。今後は、素案P53に掲げているとおり、随時、適正な受益者負担の見直しに取り組んでまいります。	対応2 【既記載】
	成果指標「令和11年度までに来園者数85万人」を達成するためには、マスメディアを使ったより積極的なPR活動（たとえば鹿児島市平川動物公園のテレビコマーシャル）も必要と考えます。とくに、平坦で坂がほとんどない地形は、車椅子利用者や高齢者等に優しい動植物園として、十分なセールスポイントになり得ると思います。	成果指標を達成するためには、ご意見のようなPR活動はとでも重要であると認識しています。令和元年度も、熊本地震からの復興と全面開園を広くPRするために、新幹線沿線の福岡エリア（福岡市・北九州市・佐賀県）と鹿児島県でのテレビコマーシャルを放映しました。今後の広報戦略については素案P51に掲げておりますが、ご意見を踏まえた上で、今後事業実施の段階で、効果的な情報発信方法を検討してまいります。	対応4 【事業参考】

項目	ご意見等の内容	本市の考え方	対応内訳
第3章 計画実現に向けた取り組み 12. 「愛され続けるための運営体制の強化」	動植物園の情報を、週に1、2回インターネットで小中校生向けに発信し、「子どもたちに身近な動植物園」にしてほしい。	動植物園の情報については、これまで、動植物園のホームページ上で、「飼育ブログ」や「植物ブログ」で定期的な情報発信に努めてまいりました。加えて、動画配信による情報発信を強化するため、平成30年度からは、Facebook、Twitter やInstagram などのSNSによる情報発信も行っております。いただいたご提案も含め、「情報を届ける」ための取り組みを検討してまいります。	対応4 【事業参考】
	初期投資が必要ですが、太陽光発電、小型水車発電の導入等による光熱費の削減は難しいでしょうか。	光熱水費については、使用料の節減を進めるとともに、施設の更新に併せて省エネルギー化することで削減したいと考えています。いただいたご意見については、費用対効果の検証が必要であることから、事業実施の段階において、参考にいたします。	対応4 【事業参考】
	動物サポーター制度は、週1で利用することで、年間1万円以上になるため、一口の金額を値上げしてもよいと思う。	今後、素案P58に掲げている「動物サポーター制度の見直し」のとおり、動物のエサ代から今後取り組む展示施設の整備に活用することへ見直しを行う予定としています。いただいたご意見については、制度設計を進めていく中で、参考にいたします。	対応4 【事業参考】
その他	写真の選定の根拠はあるのでしょうか。例えば、p1では、なぜ「ナノハナ」の写真なのでしょう（名物の桜の回廊の写真ではダメでしょうか）。マスタープランですので、もっと動植物園が訴えたい写真を、効果的に選定してはいかがでしょうか。	写真の選定に関しては、動植物園であることから、まず動物と植物を均等に配置したうえで、日本で唯一飼育しているキンシコウや植物園の風物詩である花畑のコスモスやナノハナなど、動植物園のシンボルとなるようなものを中心に選定しています。ご意見のとおり、桜の回廊も動植物園の名物ではありますが、特にシンボルとなるようなものを中心に選定を行っておりますのでご理解いただきたいと存じます。	対応3 【説明・理解】
江津湖畔に、ホテルに優しいナトリウム灯を。夕方の散策の時、足元を照らしてください。	いただいたご意見は、動植物園外の所管であることから、関係部署との情報共有を行います。	対応5 【その他】	
動植物園入口電停から動物園へ、さらには、江津湖畔にかけ「桜の通り抜け」をつくってください。	いただいたご意見は、動植物園外の所管であることから、関係部署との情報共有を行います。	対応5 【その他】	